

富士市中小企業景況調査結果

2019年度第3四半期【令和元年10月～12月】

令和2年1月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率66.0%)を対象に、「令和元年10月～12月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和元年7月～令和元年9月 今期…令和元年10月～12月 来期…令和2年1月～3月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲28.7	→	▲31.8 (▲14.4)	→	▲28.2
売上	▲19.1	→	▲22.3 (3.8)	↗	▲10.9
採算	▲30.3	↘	▲36.1 (▲13.7)	↗	▲17.9

今期調査では、全産業合計の業況・売上DIはともに横ばい、採算DIは弱含みの下降となった。来期の予測については、全産業合計の業況は強含みの横ばい、売上・採算DIは10ポイント以上の上昇の見込みとなった。

産業別にみると、製造業と小売業の今期主要DIは全て下降となり、自動車や産業用機械等の出荷量の伸び悩みを背景に、製造業で総体的に前期より生産・販売・需要減少とみている声や、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減による個人消費の低迷で小売業などの景況感悪化の回答があった。

今後の見通しでは、貿易摩擦の激化などで世界経済が減速するなか、輸出の低迷に加え、先行き不透明感から設備投資は減退すると予想される声もあったが、来期予測の採算DIはサービス業の弱含みの横ばい、その他産業は全て大幅な上昇見込みとなった。

経営上の問題点では、製造業は「設備老朽化」、建設業は「人材不足」、卸売業・小売業が「売上減に伴う利益減」、サービス業は「人件費高騰/人材不足/設備老朽化」がそれぞれ1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業、小売業は下降。サービス業は上昇。建設業、卸売業は横ばい。
来期は、製造業、卸売業、小売業は上昇を予想。建設業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲29.7	↘	▲36.4 (▲18.2)	↗	▲31.3
建設業	▲10.7	→	▲13.8 (10.3)	↘	▲31.1
卸売業	▲42.9	→	▲45.8 (▲21.7)	↗	▲33.4
小売業	▲50.0	↘	▲57.9 (▲38.9)	↗	▲21.1
サービス業	▲20.0	↗	▲14.8 (▲13.8)	↘	▲22.2
全産業	▲28.7	→	▲31.8 (▲14.4)	→	▲28.2

〔売上高のDI〕 製造業、卸売業、小売業は、下降。建設業は、上昇。サービス業は横ばい。
来期は、製造業、建設業が横ばいを予想。卸売業、小売業、サービス業は、上昇を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲16.2	↘	▲21.2 (▲3.1)	→	▲25.0
建設業	▲28.6	↗	▲6.9 (24.2)	→	▲10.7
卸売業	▲23.8	↘	▲41.7 (17.4)	↗	▲29.1
小売業	▲10.0	↘	▲36.8 (▲11.1)	↗	15.7
サービス業	▲16.7	→	▲12.0 (▲10.7)	↗	4.0
全産業	▲19.1	→	▲22.3 (3.8)	↗	▲10.9

〔採算のDI〕 製造業、卸売業、小売業は、下降。サービス業は、上昇。建設業は横ばい。
来期は、製造業、建設業、卸売業、小売業は上昇を予想。サービス業は、横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲32.4	↘	▲46.9 (▲15.1)	↗	▲32.2
建設業	▲22.2	→	▲24.2 (6.9)	↗	▲10.3
卸売業	▲47.6	↘	▲54.1 (▲17.4)	↗	▲20.8
小売業	▲45.0	↘	▲52.7 (▲27.7)	↗	▲10.5
サービス業	▲13.4	↗	▲7.7 (▲20.7)	→	▲11.6
全産業	▲30.3	↘	▲36.1 (▲13.7)	↗	▲17.9

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…「消費税の影響は全く感じなかった。良くも悪くも変化はない。」とのコメント。

『紙加工』…「脱プラスチックに向けての流れが加速している。来期はオリンピック開催もあり、堅調に推移すると思われる。雇用面では、相変わらず厳しい状況である。」「家庭紙については依然として需給が品薄に推移していくものと思われる。紙から電子媒体へのシフトによるPPC紙（コピー用紙）の減少は厳しい状況が続いているが、差別化された商品については安定した需要が見込まれる。米中貿易摩擦の如何によるところが大きく先行きは不透明。」との声。

『金属加工』…「輸出の不振により、自動車部品・工作機械部品の受注が減少しており、来期まで続くと思われる。」「大手企業の輸出不振の煽りを受けている。中国向けの需要が減少しており、回復の兆しが見えない。」「総体的に前期より10～20%の生産・販売・需要減少と見ているが、マイナス志向にならない様に努めたい。」との意見。

『自動車部品』…「自動車業界では、東日本を中心に台風19号の影響にて部品が得られず生産停止している所もある。経済全体に10月以降大きく後退しているように見え、オリンピック後も注視したい。」「オリンピック需要・消費税増税前の駆け込み需要もさほどなく落ち込みも少ない。利益率の良い製品は停滞している。今後、海外・新興国への輸出が増える見込み。オリンピック終了後の国内景気変動が気になる。」「海外生産を国内に移転したため仕事量は安定しているが、人員不足となっている。」とのコメント。

『繊維加工』…「米中貿易摩擦の影響による需要の減少が見られる。」との回答。

『衣料類』…トレンドの変化に伴う需要が増加しているが、生産現場では高齢化問題が大きな課題である。」とのコメント。

『印刷資材』…「オフセット印刷関連は低迷しているが、家庭紙・ダンボール部門の印刷は堅調。産業機器販売も順調に推移すると予想。今後の景況は米中貿易摩擦の行方や香港情勢及び米国大統領選の結果により、先行き不透明感が強まる。」との意見。

『食品』…原材料の不漁・不作の影響により入荷が遅れ、生産に遅延が発生した。材料価格高騰・増税の影響により値上げせざるを得ない状況になると思われる。」「世界的な異常気象の影響で原料の仕入れ価格が高騰しているため、顧客先に値上げ要請をしているが、結果を出すことが困難。日本も暖冬のためか、本来冬場に売れる商品が動かず厳しい状況。徐々に景気動向が停滞しているように感じる。」「食品の品質管理については益々厳しくなってきている。今後、マーケティング活動の自動化等積極的に投資したい。」との回答。

『飲料』…「荒茶価格の下降が続き、茶業界全体が厳しい状況。」との意見。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業 況	0.0	63.6	36.4	▲36.4	上 昇
売上高	18.2	42.4	39.4	▲21.2	横ばい
採 算	3.1	46.9	50.0	▲46.9	上 昇

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…補正予算（災害対策等）の計上により公共工事は増加傾向が続いているが、民間工事は受注競争激化で価格の引き下げ傾向にあり、受注しても採算ベースに乗らない工事となるケースが出ている。今後、公共工事は件数の増加を維持すると思われるが、対応できる建設業者が不足のため入札不調の工事が出てくる。」「公共工事に於いては、土木工事が増加しているが、人材不足のため受注に至らないケースがある。人員不足や労務費の上昇で受注に支障をきたし、収益状況は困難となる模様。民間工事に於いては、需要はあるものの他社との価格競争が激化し、不採算工事が多い。」また、「民間工事では量販店や流通業界での受注が多い。」との回答。

『一般住宅』…「過剰な値引きは、住宅の品質低下を招く。商品価値を伝えられない会社は淘汰される。」「住宅展示場では11月から見学の予約がなかった。成約に慎重になったお客様がようやく動き始めた。技術職の人材不足に伴い熟練大工は多忙のため、職人の確保が難しい。」「来年のオリンピック終了後、人口減による構造的不況が予測される。」との意見。

『建設関連』…「オリンピック特需は一段落したため、大手各社が小規模工事でも受注するようになり、競争が激化する様相。」「昨年と比べ東部地区の仕事量は減少しているが、人員・人材不足で慌しい状況。来年も新規の仕事があり、受注は確保しているが、慢性的な人手不足の対処が今後の課題である。」「人材不足により仕事量が制限されてしまう。人材を確保し、育成したい。」「当面需要は見込めるが来年以降は、オリンピック効果の反動で厳しいと予想。メンテナンスなどのストック系業務は安定して推移すると思われるが、全体的に景況感は低下し更に厳しい時代になると推測する。」一方、「行政の予算が福祉関連に重点を置く編成との事で建設業界への需要が減少傾向にあることを危惧する。防護柵（橋梁用転落防止・車輛用防護柵等）にて人命財産を守ることの大切さを認知して頂きたい。」との声。

『土木関連』…「生コン関連では生産調整にて適正在庫を保っているが、需要が減少しているため、販売数量も減少しているのが現状である。」「過当競争により受注減少、利益率低下が懸念される。」「造園業に於いて新・再開発における緑化工事は、公共・民間共に低迷。この時期当業界は、公園・庭園等の剪定等の管理に追われている。公園・庭園・緑地の維持管理は、樹木が大きくなり剪定、伐採等高い技術力が求められる様になってきている。」「民間の庭木の手入れが12月末まで多忙。しかし、造園工事としては公共・民間共に減少している。」とのコメント。

『屋外広告・イベント』…10月に新しい機械を導入し、新規顧客獲得に繋げたい。

『その他』…「地方都市の建設業界の新規採用は非常に困難な状況下にある。行政が中心となり、若年層の流出を食い止める施策を強化して欲しいと思う。」「地域への帰属意識及び地元愛の低下を危惧する。」「富士市の基幹産業である製紙業界（特に家庭紙）の動向が気になる。管理型産業廃棄物処分場の新転地は決定しているのか危惧する。」「セルロースナノファイバーが早期に実用化され、地域に応用・適用できる産業として育ち波及することを期待する。」との意見。「ららぽーと沼津がオープンした影響か、市内東部地区の国道1号線に向かう道路の交通量が増加した模様。」「市内北部地区に於いて、猪・猿・鹿の被害が通年見られるが今年の10月～12月には猪の被害が著しく、農家ばかりでなく一般家庭でも深刻な状態である。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	0.0	86.2	13.8	▲13.8	下降
売上高	17.2	58.6	24.1	▲6.9	横ばい
採算	3.4	69.0	27.6	▲24.2	上昇

【卸売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…「顧客の生産減少に伴い設備予算が縮小されており、販売量が低下している。当面は厳しい状況が継続すると思われる。」「年末に掛け商品の仕入価格値上げの告知が複数件あり、今後の売上に影響すると予想される。大手通販に加え、専門分野に特化したホームセンターも増加し、エンドユーザーの選択肢が広がり受注確保が益々厳しくなる。」「販売増は見込めない。小売業者の高齢化に伴い設備投資は不可能、借入も難しいとなれば廃業するしかない。」とのコメント。

『自動車部品』…「消費税増税・台風の被害等により10月は車輛販売数が大幅に減少し、自動車部品の補修需要が売上利益とも前年対比10%~15%の落ち込みであった。11月には回復したが前年実績には追い付かず、来年にかけて若干上回ると予測する。ハイブリッド車・車輛のEV化（電気自動車）による部品の変化等で現在の在庫品がデッドストックとなる可能性が高い。」との意見。

『建築材料』…「労働安全衛生法の改正により、高所作業を行う場合に使用する安全帯がフルハーネス型のものに義務化された。移行期間として3年の猶予期間があるものの新規格品の入荷に半年以上掛かり、お客様に待って頂いている状況である。」との情報。

『紙』…「デジタル化が進み商品のサイクルが益々早くなる。紙媒体は減少し、サービス製品（商業印刷・商業販促物）が増加傾向。また、人手不足のなか、営業から発注・制作・納品等業務の棚卸が必要である。」との声。

『製紙原料』…「中国による古紙輸入規制が市況悪化に拍車をかけている。古紙価格が採算に合わなくなっており、逆有償化の動きが加速する模様。」「産業古紙の減少、中国輸入規制による輸出の低迷、段ボールの需要が鈍く生産減少等で古紙在庫が近年になく増加し、来期も不変と予測。」「紙の業界は低迷状態が続く。製品価格維持のため原材料価格を抑えているが、一部値下げ販売が見られる。」「今一度自社の経営を見直し、今後の進むべき新しい方向を探し出すチャンスが来たようだ。」というコメント。

『再生資源』…「鉄スクラップは製品不況に伴い低迷していた。しかし、一時的だと思われるが輸出量が増え単価が上昇した。非鉄スクラップは中国が買いに回り、上昇したが長続きはしないだろう。米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題など貿易相手国への諸問題解決により、輸出需要の増大を期待する。」「鉄鋼製品は、中国の増産による輸出増もなくなり、国内メーカーの製品価格が安定している。自動車産業向け及び建物関連の製品も減産している。世界的に鉄鋼生産が減少し、原料スクラップ市況は横ばいと思われる。」「廃プラスチックリサイクル処分における価格競争が発生しない様に適正な価格設定を意識している。」との回答。

『工業薬品』…「家庭紙在庫が増えている為、生産調整中。今後、供給過多による製品価格の下落が見込まれる。」「生産量は年末年初時に於いて例年以上の動きと思われるが、その後の反動が気になる。今後各国の経済情勢の変化を踏まえ、原油価格の動向に注視する必要がある。」との声。

『食品』…「米穀卸売市場が縮小するなかで事業者数が多いため、今後淘汰が進み生き残りの戦略が必要である。生産農家も高齢化が進み後継者問題も抱えており、生産量が減少。安定的な仕入ルートの確保も必要とされる。」との意見。

『その他』…「富士駅北口再開発計画が一部縮小されたとの記事を見たが、その後どうなっているのか。関心はあるが情報量が少なく、このままでは商店街（本町通りを含めた）の未来像が想像できないため、再開発事業モデルを示して欲しいものだ。」「工業企業誘致ばかりでなく、ショッピングセンター・レジャー施設等観光面でのハブ的役割を果たすよう『まちづくり』を行政と進めて頂きたい。」「当地域は現在、災害被害が少ないが、不測の事態に備えて企業防災（防災と事業継続）に対する取組をしている企業との格差があるのではないかと危惧する。」「昨今、全国どこでも同じような商品が手に入り、地元ならではの魅力的な商品が減少したように見受けられる。」「仕事で伊豆市地域に行くが人口減少、観光業低迷で廃業者が目につく様になって来た。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	4.2	45.8	50.0	▲45.8	上 昇
売上高	20.8	16.7	62.5	▲41.7	上 昇
採 算	4.2	37.5	58.3	▲54.1	上 昇

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…「近年、和菓子系の廃業が先行していたが、2019年は洋菓子系の廃業が上回っているようだ。要因として慢性的な人手不足・労働生産性の低さ・コンビニ商品の台頭などで、長い間、利益率・回転率の高い商売であったが競争激化が進んでいる。最高品質の菓子づくりと適切な戦略を立てる経営者の裁量が重要だと思われる。」「来年は厳しい年になると思うので、年末年始の需要の動きを注視する。」との声。

『食料・飲料』…「報道等で緑茶の価格下落等について、過大に取り上げられ迷惑なことである。」「高齢化による農業従事者の不足で荒れた農地が多く、雑草や害虫等の増加で当茶園や周辺地域にも影響が危惧される。」との回答。

『衣料品・呉服』…「消費税増税及び天候不順や台風被害等により需要が低迷。来客数も減少し回復の兆しがみえない。」「9月以降、実需が減少し、イベントを企画しても売上向上には繋がらない。成人式用の着物は貸衣裳店・写真館でのレンタル対応等が殆どで、当地域においても呉服店が減少している。」とのコメント。

『生花』…「花の生産者不足や需要の低迷により廃業農家が増加し、品物不足による仕入れ価格の上昇が経営を悪化させている。生花店自体も後継者不足が進み危機感を持つ、新しい需要の開拓に取組みたい。」との意見。

『日用品・雑貨』…「キャッシュレス決済での売上がかなり増えてきている。しかし、中小店舗向けのキャッシュレス化の説明が不十分で、店主が高齢の店では諦めた店も結構あるようだ。当店に於いても7月に申請し5%還元ポイントを実施できたのは11月になってからで、申込会社や国等に問い合わせても明確な回答を得られずトラブルも相次いだようだが、行政・会議所等も、もう少し詳しい説明会等を実施して欲しかった。」との声。

「ネット通販サイト「楽天市場」において、送料無料となる購入額を税込 3,980 円で統一することを発表した。実際の配送料は出店者の負担としている。当社は他社に通販出店しているが、他社が追随する事も考えられるため非常に危惧している。」との回答。

『化粧品』…「国内化粧品会社の新製品や主力商品が次々と発売され、大手ドラッグストア及びインターネットや海外での需要は好調を維持。最大手S社では生産が追いつかず品切れが多発。一方、小規模店では売り上げの減少が著しく、廃業する店舗が増加している。今後は同業他社との競合、ネット販売の急激な拡大、海外情勢による鈍化など様々な要素により景気は不透明である。」とのコメント。

『家電』…「キャッシュレス決済によりポイント還元でクレジットカード利用客が増えている。今後、オリンピックに向けた4Kテレビ等の需要に期待したい。」との声。

『自動車』…「自動車メーカー8社では10月の世界生産が3ヶ月連続で減少となった。台風19号の影響やインド等のアジアでの減少も目立った。米中等世界主要市場で販売が伸び悩み、国内は消費税引き上げに伴う購買意欲の減退も響いた。高齢者を対象に安全装置付き自動車の購入に補助金制度が検討されており、運転事故の軽減と普及を後押ししたい。」
「旅客運送業としては、今期はラグビーワールドカップ開催の恩恵を受け好調であった。運転手を確保できたら更に売上アップだったと思う。来年はオリンピックイヤーのため、需要が見込まれ期待できそうだが、人員・人材不足等雇用・労務問題が急務で受注案件を断念するような状況は回避したい。」
「自動車修理に於いて、電子制御装置の整備は分解整備から特定整備とする認証取得が必要となり、新たな投資が必要となるほか、事業継続が難しい状況が考えられる。」との回答。

『その他』…「ららぽーと沼津の開業による影響が出始め、イオンタウン富士南の客の減少も目立っている。人口減の中、過当競争による地域の生活行動の変化に脅威を感じる。」
「商店街が栄える時代は終わったと言われるなか、富士駅を活かしながら人の流れを作り、周囲を巻き込み生き残りを図りたい。」
「イオンタウン富士南に入っていた化粧品店がららぽーと沼津に移転した為、購入先を失った消費者が流れている。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	5.3	31.6	63.2	▲57.9	上 昇
売上高	21.1	21.1	57.9	▲36.8	上 昇
採 算	10.5	26.3	63.2	▲52.7	上 昇

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『飲食』…「忘年会シーズンに入り受注は微増だが、単価が減少となっている。消費税増税分が大きく影響していると思われる。全国チェーン店等で安価な若者向けの店が好調の様だ。」とのコメント。

『クリーニング』…「家庭用掃除用具等は需要の減少が続いており、消費税増税と景気の後退感により先行きに明るさ見えず、売上全体の影響度が高い。」との見解。

『運輸・倉庫』…「運送業界では若年層の流入減少と労働者の高齢化が著しい。」との声。

『不動産』…「市内全域に工業系の需要はあるが住宅地の需要が減り、宅地分譲地の販売が鈍い。岳南地域が向上し、不安のない経済状況でないとサラリーマン家庭を中心とした住宅地購入者の需要は見込めない。住宅会社の受注も下落しているため、宅地造成分譲業者も販売に苦慮している。」「分譲地が増え過当競争気味だが、売れている土地もあり建築が続いている。しかし、富士市の人口は減少し続けており、今後は鈍化する様相。」「現在、空室はなく順調に推移しているが、メンテナンスに掛る資金確保は厳しい。」との声。

『求人広告・広告デザイン』…「過当競争が激化しており、体力の奪い合いの状況。来年も減収減益が考えられ、低迷状況が継続する模様。新商品等の起爆剤が必要とされる。」「消費税増税による影響で消費者ニーズ減のため受注は減少の見通し。競争力の低下、業界の市内業者の減少。」との回答。

『専門サービス』…「経営者の高齢化に伴い後継者不足、産業構造の変化に対応出来ない業界の廃業が迫っているなか、税理士業界としてIT対応やM&A支援、事業承継対応策が重要な課題である。こうした需要はサービスの付加価値により大きく左右される。」「税理士業界的には高レベルな業務に対応している事業者は増収増益が見込まれる。どの業界も事業者数は減り、勝ち負けがはっきりすると思われる。今後、人口減少に伴い地域的に人材確保が困難になると思われる。」との見解。

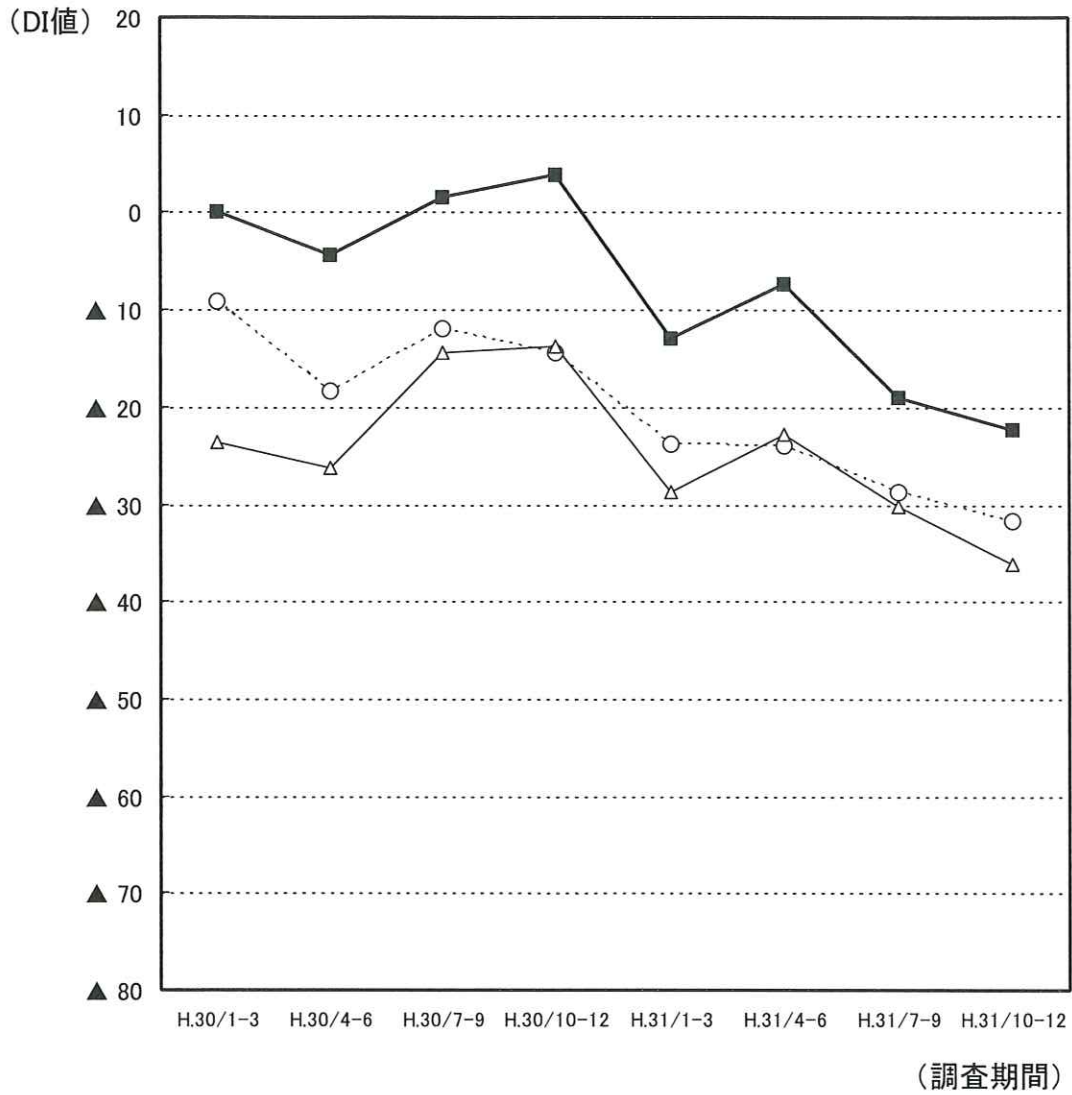
『旅館・ホテル』…「交通アクセスが悪く低価格競争激化のため、集客の見通しが無い。」とのコメント。

『その他』…「須津地域内での明るい話題がなく、将来の産業面に期待できる要素が少ない。」「柚木地区周辺にフィットネスジムが数件新規開業している。健康指向への表れであると同時にファッションのひとつのアイテムになっているように感じる。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	11.1	63.0	25.9	▲14.8	下降
売上高	20.0	48.0	32.0	▲12.0	上昇
採算	19.2	53.8	26.9	▲7.7	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

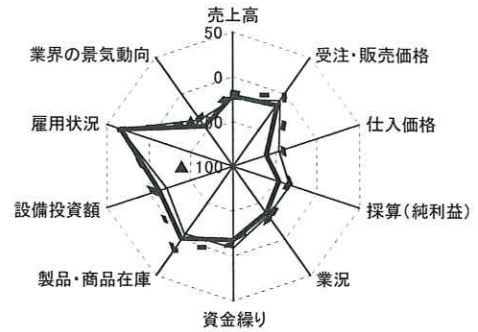


レーダーチャート

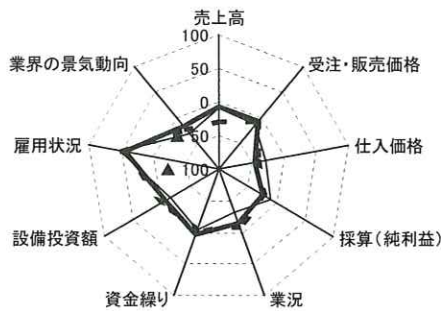
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

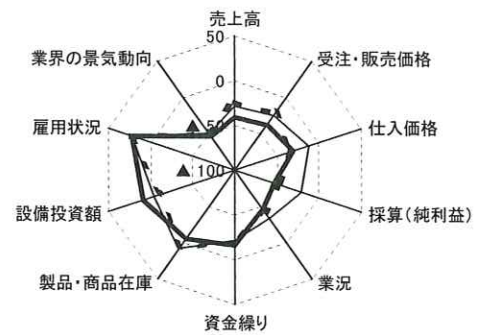
【製造業】



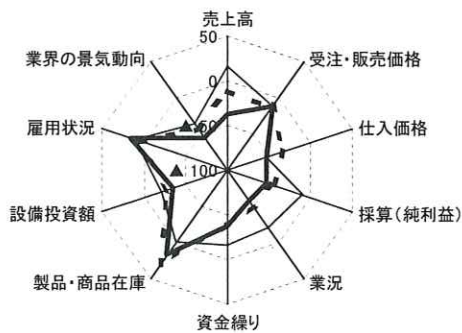
【建設業】



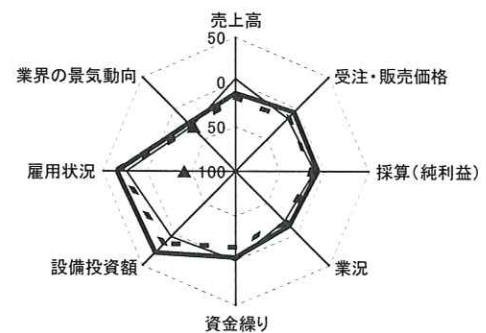
【卸売業】



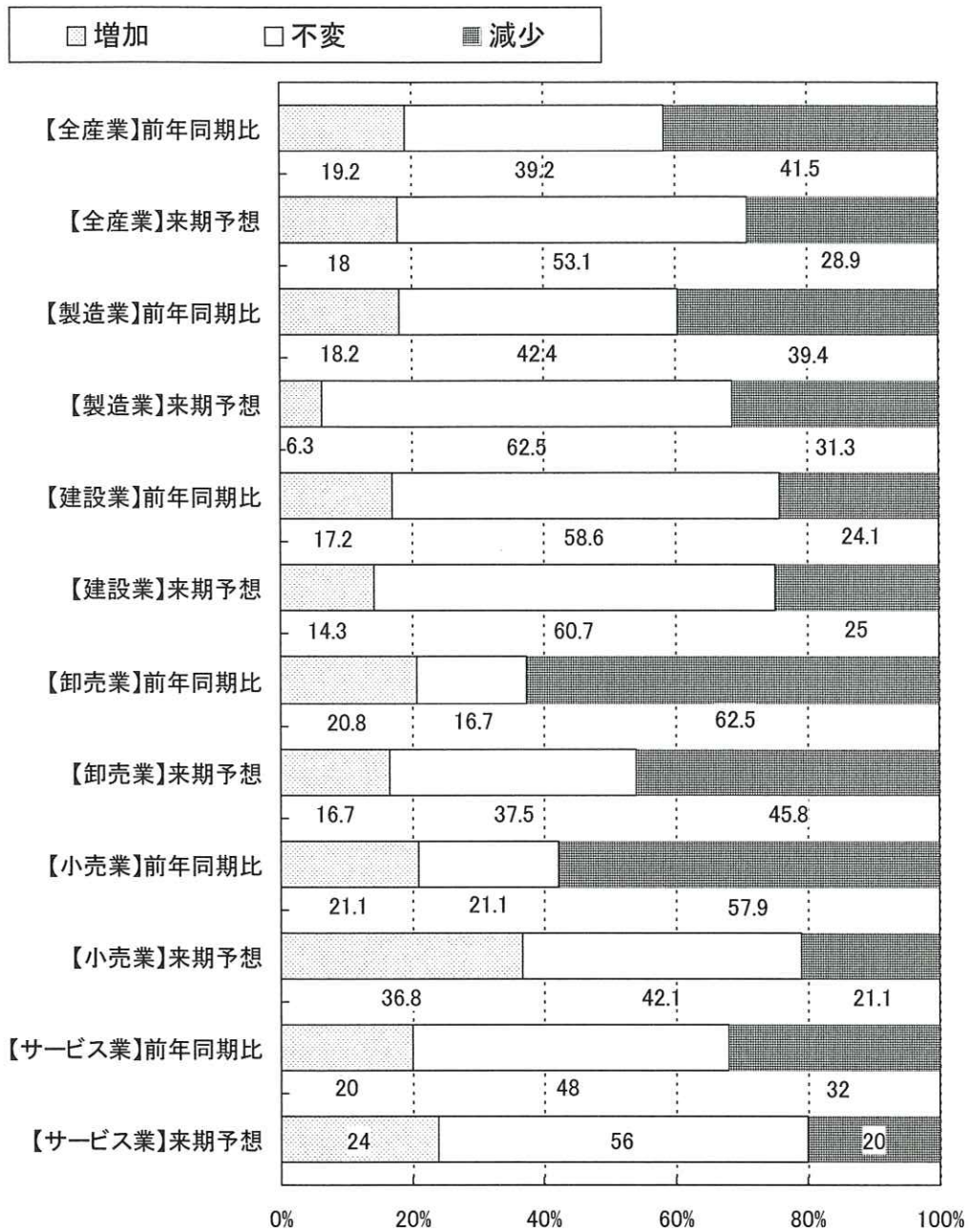
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人件費高騰</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人材不足</p> <p>その他 売上減に伴う利益減／人員不足</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 人員不足</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 過当競争／人件費高騰</p>
卸売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 過当競争／設備老朽化</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 設備老朽化</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰／人材不足／設備老朽化</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／過当競争</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2019年12月13日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）

県内の景気は、このところ緩やかな拡大に足踏み感がみられる。

最終需要の動向をみると、設備投資は増加が続いている。また、公共投資は着実に増加している。個人消費は、消費税率引き上げや天候不順による振れを伴いつつも、雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。一方、住宅投資は貸家を中心に減少している。また、輸出は海外経済減速を受けて減少している。

こうした下で、企業の生産は減少している。この間、19/12月短観でみた企業の業況感、売上高、企業収益は、製造業を中心に悪化した。

雇用・所得環境をみると、労働需給のタイト感は一頃に比べて幾分低下しているが、全体としては緩やかな改善が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

- (1) 個人消費・・・消費税率引き上げや天候不順による振れを伴いつつも、雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。
百貨店・スーパー売上高は、季節商品を中心にやや弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数・販売台数は、一部車種の供給制約や消費税率引き上げの影響等から弱めの動きとなっている。コンビニエンスストア売上高は、緩やかに増加している。家電販売額は増加している。ドラッグストア売上高は、着実に増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、緩やかに増加している。
- (2) 公共投資・・・着実に増加している。（公共工事請負金額前年比：19/10月+40.2%
⇒11月+15.1%）
- (3) 設備投資・・・新たな需要の獲得や次世代技術の開発等に向けて、能力増強投資、生産性向上投資、研究開発投資等の増加が続いている。（設備投資額前年度比<短観>：18年度計画+7.2%⇒19年度計画+5.1%）
- (4) 住宅投資・・・貸家を中心に減少している。（新設住宅着工戸数前年比：19/9月▲19.5%⇒10月▲5.2%）
- (5) 輸出・・・海外経済減速を受けて減少している。（輸出額前年比：19/9月▲14.8%
⇒10月+0.5%）
輸送用機械を中心に減少している。

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産・・・減少している。(鉱工業生産指数・生産 季節調整済(15年基準) 前月比：19/8月▲4.2%<改訂値>⇒9月+2.2%<速報値>)

自動車・同部品は、減少している。二輪車・同部品は、幾分持ち直している。食料品は、横ばい圏内の動きとなっているほか、電気機械は、増勢が鈍化している。化学は、増勢が鈍化している。はん用・生産用・業務用機械は、弱めの動きとなっている。紙・パルプは、減少しており、楽器は、持ち直しの動きが一服している。

(2) 雇用・所得・・・労働需給：有効求人倍率、新規求人倍率は、一頃に比べて幾分低下しているが、引き続き高い水準にある。雇用者所得：緩やかな増加が続いている。

(有効求人倍率 季節調整値：19/9月1.54倍⇒10月1.51倍)

一人当り名目賃金は、増勢が鈍化している。常用労働者数は着実に増加している。

(3) 物価・・・消費者物価指数(除く生鮮食品)は前年を上回っている。(指数・前年比：19/9月▲0.3%⇒10月+0.1%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産(負債総額10百万円以上)・・・件数、負債総額ともに総じて落ち着いている。企業倒産(19/8月、負債総額10百万円以上)をみると、件数(23件<前年比：▲35.2%>)、負債総額(29億円<同：+29.8%>)

(2) 預金・・・前年を上回っている。(前年比：19/9月末+1.0%⇒10月末+1.4%)

(3) 貸出・・・減少している。(前年比：19/9月末▲2.0%⇒10月末▲1.7%)

(4) 貸出約定平均金利・・・前月比低下した。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)(19/9月1.773%⇒10月1.770%)。

以 上